

日時：平成29年11月29日（水）14：00～14：25

場所：市役所第4会議室

出席者：市長、副市長、企画理事、理事、企画部長、農林水産部長

取材者：日本経済新聞、岩手日報、岩手放送、岩手朝日テレビ、共同通信、東海新報、読売新聞、朝日新聞、NHK、河北新報（敬称略、順不同）

市長挨拶

本日は主に、12月議会があるということで、早いもので今年もあとわずかですが、本日はその内容等についてお話しさせていただきます。

会見項目

（1）平成29年第4回市議会定例会について

市長）

会期は11月30日から12月12日までの13日間です。

一般質問は9名の議員から通告を受けております。

提出案件ではありますが、報告が1件、提出議案が19件であります。

はじめに、報告第1号ではありますが、市公用車が郵便差出箱に接触した事故による損害賠償事件に関し、損害賠償の額を定めることについて、専決処分を行ったので報告するものであります。

続きまして、議案第1号は、平成30年度から平成32年度まで過疎対策事業債を活用し、当市における総合的かつ計画的な過疎対策を実施するための有効な財源を確保するため、「陸前高田市過疎地域自立促進計画」を策定しようとして提案するものであります。

議案第2号と議案第3号は、高田地区土地区画整理事業、高田松原公園運動施設再整備工事等に伴う、市道54路線の認定と、1路線の廃止をしようとして提案するものであります。

議案第4号と議案第5号は、両替漁港区域内の公有水面の埋め立てにより、新たに生じた土地の確認と、それに伴い字の区域を変更しようとして提案するものであります。

議案第6号は、岩手県沿岸第一地域（気仙地区）視聴覚教育協議会を廃止することについて、関係市町と協議しようとして提案するものであります。

議案第7号は、（仮称）陸前高田市総合交流センター新築工事の変更請負契約締結についてではありますが、作業員確保のための宿泊費の増等による変更であります。

議案第8号は、陸前高田市公共下水道雨水排水路（土手影工区）その1設置工事及び陸前高田市公共下水道陸前高田浄化センター放流管渠他設置工事の請負契約締結についてではありますが、これは、震災で被害を受けた気仙町字土手影地内ほかの雨水排水路及び陸前高田浄化センター汚水放流管渠を整備しようとして提案するものであります。

議案第9号の財産の取得は、陸前高田市土地開発公社が保有する土地を取得しようとして提案するものであります。

議案第10号と議案第11号の財産の取得は、高田地区及び今泉地区防災集団移転促

進事業の用に供する土地を取得しようとして提案するものであります。

議案第12号は、陸前高田市企業立地奨励条例の一部を改正する条例についてであります。これは、農村地域工業等導入促進法の一部改正に伴い、所要の改正をしようとして提案するものであります。

議案第13号は、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてであります。これは、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴い、非常勤職員が育児休業をすることができる期間を延長するため、所要の改正をしようとして提案するものであります。

議案第14号は、財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正する条例についてであります。これは、普通財産の譲与等について、所要の改正をしようとして提案するものであります。

議案第15号は、陸前高田市立中学校設置、管理に関する条例の一部を改正する条例についてであります。これは、市立第一中学校及び、市立気仙中学校を統合し、新たに市立高田第一中学校を設置しようとして提案するものであります。

議案第16号は、陸前高田市農業委員会の委員等の定数を定める条例についてであります。これは、農業委員会等に関する法律の一部改正に伴い、必要な事項を定めようとして提案するものであります。

議案第17号は、平成29年度陸前高田市一般会計補正予算（第4号）についてであります。

今回の補正の内容ですが、復旧・復興関連事業費等を計上しているところであり、歳入歳出予算の総額を、それぞれ279億346万9千円を追加し、総額を1049億856万8千円とするものであります。

主な追加事業であります。川原川ほか12河川の単独災害復旧事業費に、約4,000万円、保育所運営費委託料に、約2,800万円、只出漁港整備工事費に、1,200万円、雪沢川の災害復旧事業費に、1,150万円、高田小学校プール上屋新築設計委託料に、900万円、果樹産地化推進事業費補助金に、800万円、福祉灯油支給事業費に、約600万円、新しい低炭素公共交通システム構築業務委託料に、約420万円、復興・大相撲りくぜんたかた場所開催事業費補助金に、200万円、その他、財政調整基金積立金、東日本大震災復興交付金積立金、土地開発基金積立金に約296億円を計上させていただいたところであります。

また、減額の主な事業は、津波復興拠点整備事業（高田南地区）業務委託料、高田地区土地区画整理事業費で約25億6,900万円の減であります。

議案第18号と議案第19号は、下水道事業特別会計と国民健康保険特別会計の補正予算であります。説明は割愛させていただきます。

以上で提出案件の説明を終わります。

【質疑】

質問）復興・大相撲りくぜんたかた場所はいつ開催されるのでしょうか。

市長）来年8月15日、陸前高田ライオンズクラブの周年事業と合わせて開催されるものと聞いております。

(2) 12月～平成30年2月の行事予定について

【質疑】

なし

<その他>

質問) 年が明ければ震災から間もなく7年となります。復興事業を振り返って、今後に生かせる教訓を将来にわたり全国に伝えていくことについて、陸前高田市としてどう考えるか伺います。

市長) 教訓についてはたくさんあります。一昨日は仙台市の世界防災フォーラムでお話しし、昨日は東京で近畿圏の方々に南海トラフ地震に関連してお話ししてきました。今ここで全て挙げるのは難しいのですが、この間復興庁にずっと申しあげてきたのは、災害対応や復興事業を進める中で、いろいろな課題があったわけです。例えば法律が壁になるとか既存のシステムではなかなか機能しないとか、そこをぜひ検証していただき、南海トラフや首都直下地震、あるいはその他の災害も含め、何か起こる前に、変えられるような制度はしっかり変えていただくことで、即応性の向上や復興の加速化に生かしていただきたいということです。

質問) 羅列は難しいとのことですが、特に、という点は何でしょうか。

市長) どこに視点を置くかだと思います。災害といった時に、未然に防ぐ防災もある。あるいは起こってしまった瞬間に住民に対してどう動くかということもある。それぞれに課題を感じているということです。そして、自治体で対応しておくべきことと国で対応すべきことがあるわけです。

質問) 米崎町のグランパファーム（以下、グランパ）の件について、台風で閉鎖中の状況ですが、市の受け止めと対応を聞かせてください。

市長) 私というより担当の方でいろいろ対策をお話ししてもらっていますので、農林水産部長から。

農林水産部長) 10月の台風21号により、風というよりは早朝の停電によりまして、エアドームへ空気を送り込んでいる送風機が停止し、ドームがつぶれたということです。本来台風でもドームは維持できるはずでしたが、しぼんだことでドームのシートそのものが強風にあおられて破けたとのこと。復旧費用が1億円超かかり、捻出できないので閉鎖したいとする文書が取引先に出回り、市としてはその時点で状況を把握しております。先週、グランパから被害届が出され、国まで情報を上げており、国の指示を待っている状況です。

地元雇用の方については全員、再雇用の段取りはついているとのこと。今後の対応については会社側と交渉中です。現在地の取扱いも含め国、県の指導を仰ぎながら進めていくこととしております。

質問) 今後の対応を交渉中ということですが、市として求めていく点は何でしょうか。

農林水産部長) 閉鎖するのであれば、契約に基づき、その土地、市有地ですけれども、更地にしていただきたいというのが大前提です。

質問) 地元従業員が解雇となり地域への影響が出てきているところですが、市長はどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

市長) 仕事をされていた方については再就職が進められていると聞いており、そこはあまり心配しておりません。経営が大変だという話は以前からありました。震災後に陸前高田市の新しい農業のかたちということで取り組んでいただいております、我々としては事業継続してほしいという思いは持っていたわけですが、実際中身を聞けばなかなか難しいのかなと思っています。今後、あの土地を違うかたちで生かしていかなければいけないと考えています。

質問) グランパは平成24年8月に完成したわけですが、市としてどのような期待を持っていたのでしょうか。

市長) 社長ともいろいろ話をさせていただきましたが、レタス栽培・出荷というより、施設そのものを海外の砂漠地帯のようなところへ輸出するんだと、その場合さまざまな研修が必要なので、海外の人に陸前高田に研修に来てもらう仕組みを作りたいんだというのが私にとって一番の魅力でありました。そちらの方が、社長が思うかたちになっていなかったのかなと思っています。

質問) 被災元地の利活用や雇用創出も期待されていたと思いますが。

市長) 雇用形態をみるとパートの方が多く、雇用の一定の受け皿にはなっていただきましたが、大黒柱が仕事をするようなかたちではなかったと思っています。いろいろな次の展開ができる事業だと私自身は期待をしていました。

質問) 建設から5年近くたちますが、この間の評価や効果はどういったものでしょうか。

市長) 非常に話題性がある施設だったと思いますし、津波浸水域の利用という意味では分かりやすい。農業後継者の不足の中、「ポロシャツを着てスニーカーを履いてやる農業」がうまくいけば、違うかたちでの農業の魅力とか、別な角度から見直してもらえらるわけですが、そういった意味では残念だと感じています。

質問) 今後、あの土地に関して新たな利用は検討されていますか。

市長) 今のところはピーカンナッツに取り組むのに適地であると考えております。元々あのエリアは農業の、花きも含めた圃場と想定しておりましたので、もし更地になるのであればピーカンナッツなどを検討していくことになると思います。

質問) 会社から市への連絡の有無、その年月日、どのような内容だったかについてお聞きします。

農林水産部長) 被災直後、早朝に社員の方から「ドームがつぶれた」と電話があり、私も見に行きました。その後、本社社員が、市内業者に廃業についての文書が出回った後でしたが、10月25日に来庁されました。県と市に対しては11月15日、被災状況と会社の経営についてこうしたいというお話に来られました。

質問) 15日以降、具体的な方針は示されたのでしょうか。

農林水産部長) 会社からは、陸前高田の農場については閉鎖したいという話でした。その後については、非常に資金繰りが厳しく、基本的には更地にして市にお返ししたいが、その件については市側と協議させてほしいということです。土地の返還の意向は示されております。

以 上